

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	映像2 (Design for the Moving Image 2)		授業コード	C168051
担当教員名	伊藤 研、星芝 貴行、足立 元		科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	それぞれが映像制作の手法を深めていく授業です。映像関連の授業をすでに履修していることが必要です。			
受講心得	長い時間をかけてひとつの映像作品を製作します。欠席のないようにしてください。			
教科書	資料を配布します。			
参考文献及び指定図書				
関連科目	映像1、情報デザイン関連の科目、CG関連の科目、サウンド関連の科目、WEB関連の科目。			

授業の目的	これまでに学習した映像制作の技術や、表現をもとに、それぞれのテーマに合わせた映像作品を制作する。
授業の概要	個人またはグループで映像作品を制作します。それぞれの個性や興味関心からテーマを設定します。映像制作の技術のみではなく、広く社会の出来事に関心を持ってください。ここまで学んできた映像制作に関する知識やスキルをフルに使うことで作品の完成を目指します。成果物は以下のとおりです。 ナレッジキャピタル学生映像Award BACA-JA作品への出品。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： ガイダンス:2週目以降の実践的な授業の進め方を説明します。 チーム編成:これからの作品制作を共同行う4~5名のチーム編成を行うとともに、チームで企画書を作成します。	これまでの映像関連講義・演習の資料を熟読する。
第2週： 企画書に合致した絵コンテを作成します。	進行中の作品に関する調査・準備など。
第3週： 絵コンテに基づいた進行計画を作成します。	進行中の作品に関する調査・準備など。
第4週： この回から、映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。
第5週： 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。
第6週： 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。
第7週： 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。
第8週： 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。	進行中の作品に関する調査・準備など。
第9週：	

映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
第10週: 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
第11週: 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
第12週: 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
第13週: 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
第14週: 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
第15週: 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
第16週: 制作した映像作品の講評をします。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①映像制作の手法を探る。 ②社会への関心を深め、表現することの意味を確かめる。
【知識・理解】	①映像制作の手法を探る。 ②映像で訴えるための表現力を探る。
【技能・表現・コミュニケーション】	①映像で訴えるための表現力を高める。
【思考・判断・創造】	①企画意図を実現できる(想定した対象に、伝えるべき情報を伝えることができる)。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			5点	
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。		50点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		40点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			5点	
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	